東京が持つ芸術文化の力で、都市力を引き出し、史上最高の文化プログラムを実現

- 2020年五輪大会を機に、都市自体を劇場とした、先進的で他に類を見ない東京の活力を象徴する文化プログラムを展開し、世界に向けて東京の魅力を発信する。
- 2020年に向けた取組を、オリンピック・パラリンピックの開催によって創出する有形・無形のレガシーにつなげていくとともに、それを次世代に継承し、世界一の文化都市東京を実現する。

アーツカウンシル東京オープンフォーラム（2014年）　撮影：新井卓

東京が持つ芸術文化の力

●都はこれまでの間、文化事業の強化を行うために、
2006年に東京芸術文化評議会を設置。
2008年4月には「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げ、
国際社会における東京の文化的な知名度の向上を目指し、
多様な文化事業を推進してきた。

●さらに、東京都美術館や東京芸術劇場、
東京都庭園美術館などの
大規模改修にあわせて各施設の事業を拡充。
2012年11月には民間の芸術文化活動の
支援機関であるアーツカウンシル東京を発足させるなど、
着実に、2020年大会の文化プログラムを
推進する基盤を整備している。

現在の取組例

●都内では、子供たちが本物の芸術文化を体験することや、地域住民と芸術家が共同で芸術活動に取り組むことを通じたコミュニティーづくりなどが行われ、都民が芸術文化を身近に感じるとともに、芸術家の表現機会の拡充が図られている。

●都はもとより、芸術系大学や芸術文化団体、企業等により、ロンドン五輪の文化プログラム等を題材としたシンポジウム等が開催され、幅広い世代の人々が交流を深めるなど、今後の気運醸成に向けた草の根の活動が広がっている。

施策の方向性

2016年リオ大会以降に展開される文化プログラムの先導的役割を果たす「リーディングプロジェクト」を国内外で展開

- 伝統芸能や演劇、音楽、映画、大道芸など多様な分野の芸術家が参加する「東京キャラバン（仮称）」を実施する。
- 国内外の多くの健常者と障害者が交流し、芸術文化を創造・体験する「障害者アートプログラム」を展開する。
- 世界中から人々が集まるリオ五輪の機会を捉え、日本の多彩な伝統文化等を発信する。
- 小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムや伝統文化の真髄を外国人に伝える体験・鑑賞プログラムを展開する。
- 自治体や企業、NPO等と連携し、空き店舗や古民家などを活用したアーティスト・イン・レジデンスの整備を推進する。

平成21年度バルテノン多摩 発表公演
パフォーマンスキッズ・トーキョー
「バルテノン☆デビュタント～野外編～」©鹿島聖子

都市を劇場とした先進的で他に類を見ない文化プログラムを展開し、東京の魅力を世界に発信

- 2019年プレ大会や2020年本大会において、美術館・博物館、劇場ホールをはじめ、公園、道路、寺社仏閣等の公共空間も活用し、伝統芸能からポップカルチャーに至る多彩な芸術文化を、多くの人々が日常生活の中で実体験できるような新たな試みを、国や関係者と連携し都市全体で展開する。
- 世界五大陸の音楽家によるオペラの制作・公演など、世界中の様々な分野の芸術家を東京に集結させ、多彩な芸術文化活動を共に展開する。
- 様々な事業ごとにプロデューサーを選任するなど、芸術文化事業の運営管理体制を確立させ、各事業を着実に開催する。

2020年大会に向けた取組を通じて、有形・無形のレガシーを創出し、次世代に継承

- 「リーディングプロジェクト」や文化プログラム、「教育プログラム（仮称）」、世界中の芸術家による交流・創造・発信など、東京文化ビジョンを実現するための取組を通じて得られた人材やその知見や体験等をレガシーとして、次代に継承する。

Message from Yoshiko Mori

森美術館理事長
東京芸術文化評議会 評議員
森佳子（もりよしこ） 氏

東京は、2014年の「世界の都市総合力ランキング」で、ロンドン、ニューヨーク、パリに次ぐ第４位です。足を引っ張っているのは文化力不足でした。2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、またその後をも見据えて、東京の競争力や魅力を高めるために、文化のパワーアップが求められます。

私自身、日々の美術館運営を通して、次の三点が重要だと痛感しています。既成概念にとらわれないこと、都市全体を巻き込みオープンで自由な雰囲気をつくること、クリエイティブになれる仕組みや場をつくることです。これらを実現することで、東京は新しい芸術文化をグローバルに次々と発信できる拠点都市となれるのです。

伝統と革新がダイナミックに共存する東京は、固有の文化資源にあふれ、文化的にも世界をリードする潜在力が備わっています。それを十分に引き出すには、私たち全員が、様々な文化活動を日常生活の一部にしていくことが大切だと考えます。

Message from Mitsuhiro Yoshimoto

撮影：杉全泰

株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事
東京芸術文化評議会 評議員
吉本光宏（よしもと みつひろ） 氏

芸術文化への投資から未来をつくる

今ほど芸術文化の持つ多様な力が必要とされる時代はありません。

芸術文化は、社会に対する新たな見方や多様な価値観を私たちに提示してくれます。同時に、教育や福祉、地域再生など、現代の日本社会が抱える様々な課題と向き合い、革新的なソリューションをもたらすようになってきました。

アート教育で子どもたちの主要教科の成績があがった。芸術家のワークショップでリハビリではあがらなかったおばあちゃんの腕が上がった。過疎と高齢化に悩む小さな山村ではアーティストの滞在制作から人口の社会増に結びついた。こうした事例は国内外で数多く報告されており、産業や経済の面でも芸術の持つ創造性は欠かせないものとなっています。

これまでは社会から支援や保護される存在だった芸術文化への投資が、社会を変え、未来を切り拓いていく…そんな時代が到来しています。